

# 固体廃棄物貯蔵庫第9棟について

2018年2月1日

**TEPCO**

## 東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製 転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

### 設置の目的等

**TEPCO**

#### ●設置の目的

固体廃棄物貯蔵庫第9棟は、敷地内に設置されている第1棟～第8棟と同様に、廃炉作業で発生した瓦礫等、及び事故前から保管されていた放射性固体廃棄物を保管する目的で設置。

#### ●放射線の外部への影響について

固体廃棄物貯蔵庫第9棟は、十分な遮へい、空調の排気には念のためにフィルターを設け、放射性物質濃度を定期的に測定することにより、敷地境界線量が1mSv/年に比べて十分小さくなるよう対策を講じています。

#### ●作業員の安全確保について

次の保管管理を行い、作業員の安全確保に万全を期します。

- ・関係者以外がむやみに立ち入らないよう、作業時以外は出入口を閉め、施錠管理する。
- ・空間線量率を定期的に測定し、測定結果は作業員への注意喚起のため保管エリアに表示する。
- ・定期的に巡視するとともに、保管物を保管する際には、保管物の表面線量率を確認して表面線量率に応じた保管階を選定する（地上2階：0.05mSv/h以下、地上1階：1mSv/h以下、地下1階：30mSv/h以下、地下2階：30mSv/h超の廃棄物を保管）。
- ・ドラム缶については、大地震における転倒リスクを低減するため、既設の第7,8棟と同様、レーンの左・右・奥は壁にて保持し、入口側はドラム缶及びパレットを固縛する。

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製 転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

固体廃棄物貯蔵庫第9棟は、2018年1月31日に竣工し2018年2月1日から運用を開始した。また、第9棟の増設により、1号機オペフロの瓦礫撤去や、2号機の原子炉建屋上部解体に伴い発生する高線量の瓦礫等の保管容量を確保できる。

## ■ 工程建屋構造・規模

耐震クラス	構造	階数		軒高 (m)	建築面積 (m <sup>2</sup> )	延床面積 (m <sup>2</sup> )
		地下	地上			
C	RC	2	2	16.1	6876	26980

## ■ 工程

工期（準備工事）：2014/7/16～2016/8/31

工期（本体工事）：2015/9/1～2018/1/31

運用開始：2018/2/1



貯蔵庫棟外観

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

## ■ 保管容量

約61,200m<sup>3</sup>

200ℓドラム缶 約110,000本相当

※1～8棟の保管容量：200ℓドラム缶

約284,500本相当

## ■ 保管方法



ドラム缶



角型容器



表面線量率に応じた保管階（例：>30mSv/hの場合地下2階）に保管する（当面瓦礫類を保管する計画）

# 2. 貯蔵庫棟写真



① 貯蔵室入口



② 貯蔵室内部



③ 連絡通路  
(既設固体庫接続部)



拡大写真

④ 監視カメラ

【現場～固体庫入口運搬重機】  
遮蔽対策フォークリフト



地上部にて積替



地下貯蔵庫入口斜路



地下貯蔵庫通路

●無人遠隔フォークリフト  
(免震重要棟から遠隔操作)



免震重要棟

